

## 名古屋市東山動植物園で確認されたヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) の記録

野呂 達哉<sup>(1)</sup> 加藤 俊紀<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白元八事五丁目230番地

<sup>(2)</sup> 名古屋市東山動植物園 〒464-0804 愛知県名古屋市千種区東山元町3丁目70番地

## Record of Asian Parti-colored Bat *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) found in Higashiyama Zoo and Botanical Gardens, Nagoya City, Aichi, Japan

Tatsuya NORO<sup>(1)</sup> Toshinori KATO<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

<sup>(2)</sup> Higashiyama Zoo and Botanical Gardens, 3-70 Higashiyamamotomachi, Chikusa-ku, Nagoya, Aichi 464-0804, Japan

Correspondence:

Tatsuya NORO E-mail: shrew-mole@ace.ocn.ne.jp

### はじめに

名古屋市内ではこれまで、アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*, キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*, オヒキコウモリ *Tadarida insignis*, ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の4種類のコウモリ類が確認されている。この内、ヒナコウモリは、2016年に都市域である中区栄三丁目の専門学校8階で確認された1例のみであった(野呂, 2017)。今回、ヒナコウモリが新たに名古屋市東山動植物園(以下、東山動植物園)において確認されたので報告する。

### 確認の経緯と拾得個体について

今回確認されたヒナコウモリは、2019年4月4日に東山動植物園(図1)のツシマヤマネコ舎前園路で拾得された(図2)。拾得された個体は体温が下がり動けない状態で、そのまま死亡した(図3)。その後、外部形態を計測し、仮剥製と頭骨標本、性別がオスであったため陰茎骨の標本作製した。また、毛皮と表皮、頭骨、陰茎骨を除いた身体については、無水エタノールで液浸保存した。これらの標本は、名古屋市環境局「なごや生物多様性センター」の標本庫に収蔵した(登録番号: MA000145)。

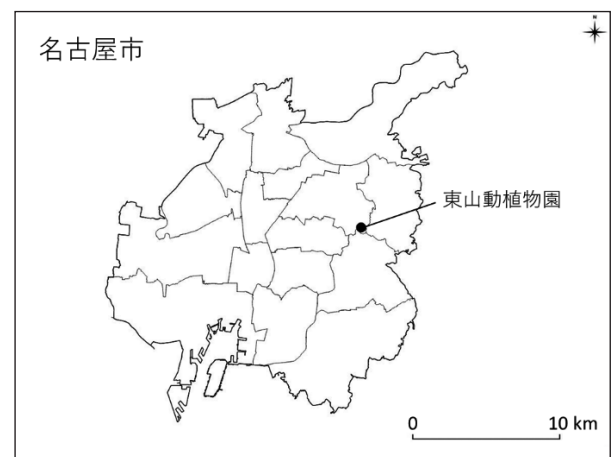


図1. 東山動植物園の位置(名古屋市千種区)。

計測値は、前腕長47.0 mm, 頭胴長60.3 mm, 尾長46.3 mm, 耳介長15.8 mm, 耳介幅10.7 mm, 後足長(爪なし)11.3 mm, 下腿長7.3 mm, 頭骨全長16.5 mmであった。体重は9.6 gであり、ヒナコウモリの体重の最小値とされる14 g(前田, 2008)よりも著しく低い数値であった。これは拾得時、冬眠明けで衰弱していたことが原因かもしれない。

今回のヒナコウモリの死体の拾得日は4月4日であった。埼玉県立川の博物館におけるヒナコウモリの越冬期



図2. ヒナコウモリ拾得位置 (東山動植物園内).



図3. 東山動植物園で拾得されたヒナコウモリ.

間中の活動状況調査では、出巢・帰巢の活動は、2月下旬から3月中旬には わずかに見られるようになり、3月下旬から4月上旬には、日没30分後くらいを中心として盛んになったとされる (大沢ほか, 2013)。これらのことから、今回のヒナコウモリが拾得された4月4日はちょうど冬眠が明けて活動が活発になった時期と重なると推測される。今回の拾得個体には外傷がなかったことから、冬眠明けで衰弱した後に死亡した可能性が考えられよう。

### 名古屋市内のヒナコウモリ

2016年にヒナコウモリが見つかった場所は、都市域である名古屋市中区のビル街であった (野呂, 2017)。市内での緑地におけるヒナコウモリの確認については、これまで音声調査によって示唆されてはいたものの、個体の拾得という確実な記録は今回がはじめてであった。

ヒナコウモリは愛知県レッドリストで「絶滅危惧 I B 類 (EN)」として記載されている (子安ほか, 2020)。名古屋市レッドリスト (名古屋市, 2015) では未記載種であったが、2020年の名古屋市レッドリスト改訂時には新たにヒナコウモリをリストに加え、「情報不足 (DD)」として記載した (名古屋市版レッドリスト2020, 動物編, 調査の概要・種の解説, 哺乳類, [http://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000125/125632/5\\_honyuuruikaisetu.pdf](http://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000125/125632/5_honyuuruikaisetu.pdf), 2020年8月10日に確認)。

全国的に見ても市街地でのヒナコウモリの確認事例

が増えていることから (青木ほか, 2006; 板橋ほか, 2007; 広瀬ほか, 2008; 浦野ほか, 2008; 重昆ほか, 2013; 大沢ほか, 2014), 今後、名古屋市内でもねぐらや越冬場所、活動場所が見つかる可能性も十分に考えられよう。

### 引用文献

- 青木雄司・秋山幸也. 2006. 相模原市の住宅地におけるヒナコウモリの保護記録. 神奈川自然誌資料, 27: 41-43.
- 広瀬憲也・大橋直哉. 2008. 東京都墨田区のマンションでヒナコウモリを保護. コウモリ通信, 16 (1): 13-15.
- 板橋正憲・須永絵美・東野晃典・小林順子・田坂樹里. 2007. 座間市で保護されたヒナコウモリの越冬飼育と出産の記録. 神奈川自然誌資料, 28: 51-53.
- 重昆達也・大沢夕志・大沢啓子・峰下 耕・清水孝頼・向山 満. 2013. 群馬県の新幹線高架橋で見つかったヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の出産哺育コロニーおよび冬季集団. 群馬県立自然史博物館研究報告, 17: 131-146.
- 子安和弘・織田鋭一. 2020. ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters). レッドデータブックあいち2020—動物編—, pp.72. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 前田喜四雄. 2008. 翼手目ヒナコウモリ科ヒナコウモリ. 日本の哺乳類 改訂2版, pp.52. 東海大学出版会, 秦野.
- 野呂達哉. 2017. 名古屋市におけるヒナコウモリ

- Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) の初記録. なごやの生物多様性, 4: 109-112.
- 名古屋市. 2015. レッドデータブック名古屋2015動物編. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.
- 大沢啓子・佐藤顕義・大沢夕志・勝田節子・石井克彦. 2013. 埼玉県立川の博物館におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬期間中の活動状況. 川博紀要, 13: 1-12.
- 大沢啓子・佐藤顕義・勝田節子・大沢夕志. 2014. 埼玉県の新幹線高架におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬期と出産哺育期の分布. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 8: 49-52.
- 浦野信孝・米道綱夫・山本浩平. 2008. 新たに発見されたヒナコウモリのコロニー. コウモリ通信, 16(1): 19-20.